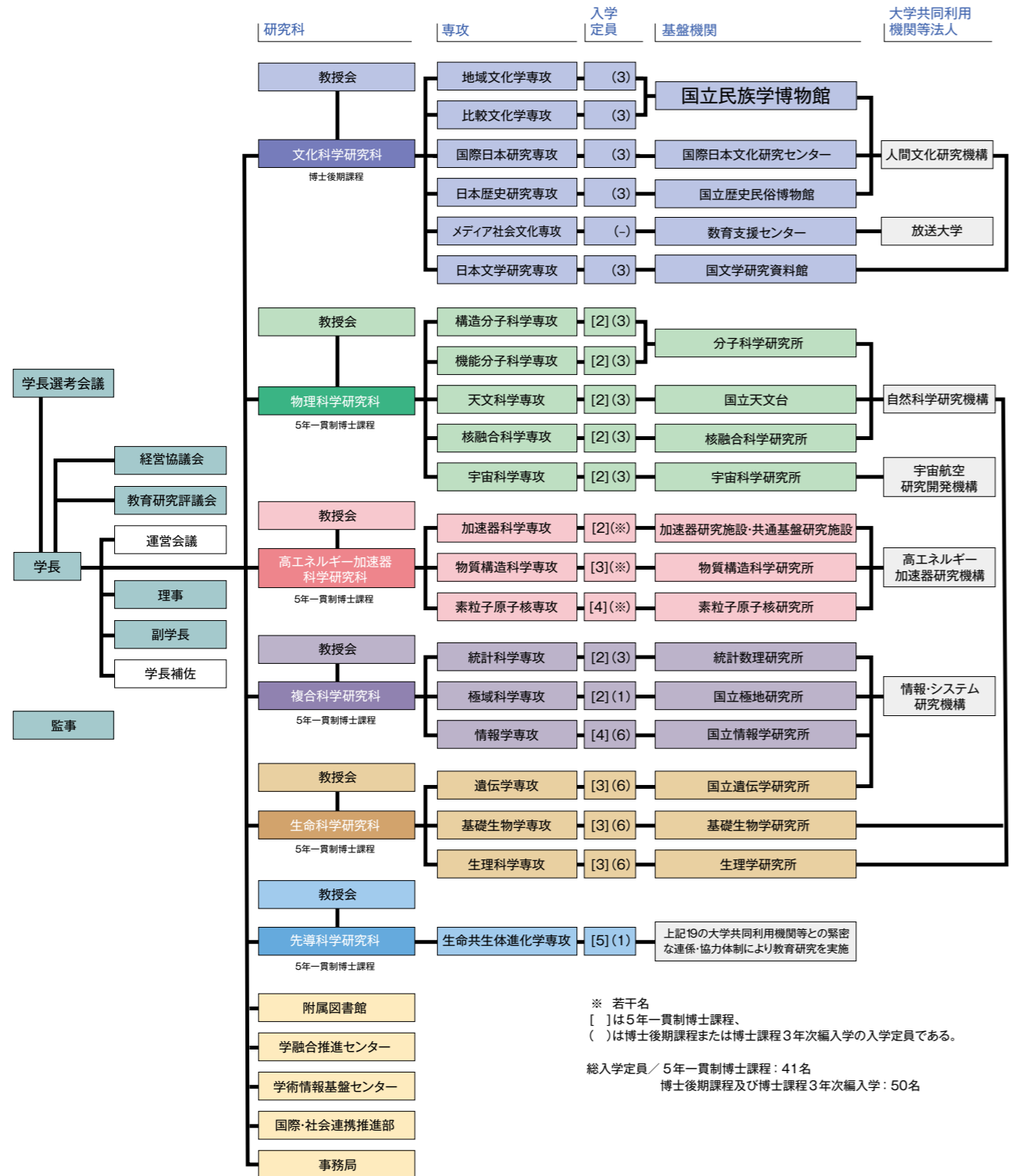




総合研究大学院大学は、学部をもたない大学院大学です。19の大学共同利用機関などとの緊密な連携・協力のもと、大学共同利用機関などの開かれた機能を生かし、各研究科・専攻間、国の内外の大学・大学院との相互交流を深めることにより、幅広い視野や総合性、豊かな国際性をもった高度な能力を有する研究者の養成を目的としています。

組織図



※ 若干名  
 [ ]は5年一貫制博士課程、  
 ( )は博士後期課程または博士課程3年次編入学の入学定員である。  
 総入学定員 / 5年一貫制博士課程：41名  
 博士後期課程及び博士課程3年次編入学：50名

大学院教育

本館には、総合研究大学院大学の文化科学研究科(地域文化学専攻・比較文化学専攻)博士後期課程が設置されています。両専攻は、全国の研究者などの共同研究推進に寄与している大学共同利用機関などの人材と研究環境を基盤として、教育・研究をおこなっています。

地域文化学専攻・比較文化学専攻の目的

教育研究は、個々の教員による授業や研究指導と、複数の教員が指導する共通のゼミナールからなっています。共通のゼミナールには、主に1年次生を対象とする「基礎演習(通称「1年生ゼミナール」)」と、2年次生以上を対象に、論文作成の指導を中心とする「演習」(通称「論文ゼミナール」)があります。

また、主として1年次生を対象として、文化人類学・民族学にかかわる共通科目(特論)が開講されています。

これは、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、大阪大学大学院人間科学研究科、神戸大学大学院の国際文化科学研究科、人間発達環境学研究科の2研究科、京都文教大学大学院文化人類学研究科との、学生交流協定に基づく単位互換対象科目にもなっています。

学生はおおむね1年次においてフィールドワーク(現地調査)の準備をすすめ、2年次以降、指導教員の指導のもとに調査地でのフィールドワークをおこないます。そして調査終了後、指導教員による個別の指導や「論文ゼミナール」での指導を受けながら学位論文の完成をめざします。両専攻の教育研究目的は、次のとおりです。

- I. 文化人類学・民族学の独創的な研究
- II. 長期のフィールドワークでえられた資料にもとづく学位論文の作成
- III. 広い視野をもった、人間性豊かな研究者の養成

地域文化学専攻・比較文化学専攻の学生

大学院入学定員および現員

平成28年4月1日現在

専攻	入学定員	現員			計	備考
		1年次	2年次	3年次		
地域文化学専攻	3	0	2	8	10	
比較文化学専攻	3	3	4	9	16	
計	6	3	6	17	26人	

年度別学位記授与者数

年度	地域文化学専攻		比較文化学専攻		計
	課程博士	論文博士	課程博士	論文博士	
平成3年度			1		1
平成4年度					
平成5年度			1	1	2
平成6年度	2		1		3
平成7年度	2		1		3
平成8年度		3			3
平成9年度	3		4		7
平成10年度	4	2			6
平成11年度					
平成12年度	2		2	1	5
平成13年度	1	1	2	1	5
平成14年度	1	1		2	4
平成15年度					
平成16年度	2	3			5
平成17年度	4	2		2	8
平成18年度	2		3		5
平成19年度	2	1	3		6
平成20年度	1		1		2
平成21年度		1	1	1	3
平成22年度	2		2	3	7
平成23年度	3		1	1	5
平成24年度	1	1	1	1	4
平成25年度			1	1	2
平成26年度	2	1	2		5
平成27年度	3	1			4
計	37	17	27	14	95人

論文博士号取得希望者の受入

日本学術振興会が実施する「論文博士号取得希望者に対する支援事業」の支援を受ける者(論博研究者)が、大学院の受入研究科において研究指導にあたる教員の下、研究をおこないます。